

日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイント —留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して—

鈴木 智美

1. 研究の目的
2. 先行研究
 - 2.1. 日本語学習者と辞書
 - 2.2. 日本語の熟達度を示す「Can-do」記述
3. 研究の方法
 - 3.1. アンケート調査における自由記述回答
 - 3.2. 「SCAT」による分析
4. レベル別分析結果と抽出される辞書使用のスキル養成のポイント
 - 4.1. 初級～初中級レベル
 - 4.2. 中級前期レベル
 - 4.3. 中級中盤レベル
 - 4.4. 中上級レベル
 - 4.5. 上級レベル
 - 4.6. 超級レベル
5. インタビュー調査の結果から
6. 今後の課題

1. 研究の目的

本研究の目的は、日本語学習者の「辞書」¹⁾の使用に焦点を当て、その文章表現を効果的に支援する方策を検討することである。そのため、まず日本の大学で日本語を学ぶ留学生を対象に辞書使用についてのアンケート調査（2011年1～2月）²⁾を、さらに文章を書く際の学習者の辞書使用行動を確認するため、インタビュー調査（2011年7～8月）³⁾を行った。

本稿では、上記アンケート調査における自由記述による回答を求めた質問項目について、その回答を質的に分析することによって、学習者が辞書の使用について抱えている問題点を見つ

け出し、その解決方法を提案することを目的とする。具体的には、学習者の日本語レベルを1つの切り口として辞書使用のスキル養成のポイントを探る。

2. 先行研究

2.1. 日本語学習者と辞書

日本語教育の分野においては、これまでも辞書の充実の必要性が指摘されてきた。近年は辞書の開発を支援するためのデータベース構築⁴⁾や、学習者の文章表現を支援するシステムの開発⁵⁾等の大規模な研究開発も進められている。

一方、より具体的に日本語学習者が辞書を「使う」ことに着目した考察では、例えば鈴木(2010)では、作文コーパス⁶⁾の中から辞書の使用が一因となり引き起こされていると思われる初中級レベルの学習者の不自然な表現に着目し、学習者とその使用する辞書の目的・レベルの不整合や、学習者が辞書に記載されている表現を選択する際に的確な判断ができていないと思われることが原因ではないかということが指摘されている。

また、鈴木(2012a, 2012b, 2012c)では、留学生の辞書使用についてのアンケートおよびインタビュー調査についての報告・考察が行われている。そこでは、辞書には良質な例文を学習者がアクセス可能な形で豊富に提示することがさらに求められるという点のほか、教育現場において文章表現カリキュラム等に辞書使用のスキル養成を取り入れていくことや、学習者が日本語を使って何ができるのかを示す「Can-do」⁷⁾の記述には、学習者の「書く」活動に関わる方略として、特に中級レベル以上を目安に「辞書を使用し、的確な表現を探し出すことができる」等を加え、学習者の辞書使用を積極的・肯定的に位置付けていくことが提案されている。しかし、辞書使用のスキル養成や Can-do 記述について、その具体的な項目の提示までには至っていない。

また他にも、日本語非母語話者の実際のコミュニケーション活動に役立つ辞書を作成するためには、非母語話者が辞書を使う状況をより具体的に解明する研究が必要であるなどの指摘も見られる[野田 2011:31]。しかし、これまで日本語学習者が実際にどのような辞書を使用し、辞書の使用についてどのように考えているか、学習者からまとまった量のコメントが集められ、それが質的に分析されたという研究は見られない。

2.2. 日本語の熟達度を示す「Can-do」記述

国際交流基金が、ヨーロッパにおける言語教育・学習の基盤として位置付けられる枠組み「CEFR」(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)の考え方を基礎とし

て開発した「JF 日本語教育スタンダード」では、日本語を使って何がどのようにできるかという観点から日本語の熟達度を示す「Can-do」記述文を、種々の日本語教育実践に利用可能なように「みんなの『Can-do』サイト」(<http://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>)でデータベースとしてウェブ公開を行っている。上記サイトから試みに「辞書」をキーワードとして該当する Can-do 記述を検索してみると、「読む」という活動の中で「辞書を使用すれば」という条件として設定されていることは確認できるが、文章を産出する場合の辞書の使用についての記述は見られない⁸⁾。ただし、この「みんなの『Can-do』サイト」は、このデータベースを利用して、それぞれの教育現場における教育目標や対象に応じ「Can-do」を書き換えたり、また新しく作成したりすることを視野に入れて公開されているものである。辞書についての記述が必要となれば、新しく独自の「MY Can-do」を作成し、専用のフォルダに組み入れて利用するということになる。

また、東京外国語大学「JLC 日本語スタンダード」(2011 改訂版)では、「書く」技能において、中級後半レベルの「スキル」(行動目標の言語行動を可能にするために、各段階で身につけることが必要となる具体的なスキル)として、「辞書を活用して、必要な語彙を補える」という記述が見られる。ただし、学習者の辞書等のツール使用が初級レベルから始まっているという現状を考えると、辞書の使用について考えることを中級後半になってからとするのではなく、むしろ初～中級レベルからそれを使いこなしていく方策を考えていく必要もあるのではないかと思われる。また、辞書を使って得ることができる情報を「語」(語彙)の単位に限定せず、また語彙を「補う」という補助的な役割にとどめることなく、辞書の活用に対し、より積極的な意義付けを見出すことも求められるのではないだろうか。

また、鈴木美加他(2012, 2013)では、東京外国語大学「全学日本語プログラム」⁹⁾においても、そのプログラムに合致した「Can-do」項目の策定に取り組んでいることが報告されており、日本語学習への意欲や取り組みの態度など、学習者の「意欲・意識」についての Can-do 記述を加えることや、「技能統合型タスク Can-do」記述の可能性を探るなど、興味深い試みが行われている。しかし、まだ全体の構想と一部試案が提示される段階にあり、具体的に「書く」活動を中心に辞書等のツールをどのようにとらえていくかについては明示されるに至っていない。

3. 研究の方法

3.1. アンケート調査における自由記述回答

上記のように、日本語学習者が文章表現を行う際の辞書使用をめぐるのは、それを支援する具体的な方策や、日本語熟達度を示す「Can-do」記述への組み込みについては具体的な案が提示されるには至っていない現状にあることがわかる。そこで、本稿ではまず、日本語学習者が

辞書使用についてどのような問題を抱えているかをアンケート調査の自由記述欄の回答を質的に分析することを通じて探り、学習者の辞書使用のスキル養成のポイントを具体的に提案することを試みたい。さらに、その考察結果から、辞書使用についての「Can-do」記述へ具体的な手がかりを得ることを目指す。ここでは、学習者の日本語レベルを1つの切り口として辞書使用のスキル養成のポイントを探ることにする。

第1節「研究の目的」で述べたように、本研究では、日本国内の大学（東京外国語大学）で日本語を学ぶ留学生を対象に辞書使用についてのアンケート調査を行っている（調査内容の詳細は鈴木 2012b）。このアンケート調査では、自由記述による回答を求める以下の2つの質問項目を設定している¹⁰⁾。

表1 アンケート調査における自由記述による回答を求める質問

番号	質問内容
11	<p>辞書を使う時、使い方について、何か気をつけていることや、自分で工夫していることがありますか。あれば、具体的に教えてください。</p> <p>If you have your own method of using a dictionary or have something you keep in mind when you use a dictionary, please let us know.</p>
12	<p>辞書を使う時、不便だと感じるがありますか。あれば、具体的に教えてください。</p> <p>Do you feel any awkwardness in using a dictionary? Please specify if you do.</p>

質問11は、辞書の使い方の工夫について、質問12は、辞書の使用をめぐり不便だと感じることについて、それぞれ回答を求めたものである。辞書を使う時に気をつけていることや工夫していることがあると答えた回答者は、アンケート回答者全117名中22名、辞書を使う時不便だと感じるがあるとした回答者は同じく117名中34名で、いずれもその全員が具体的な回答を記している。

3.2. 「SCAT」による分析

本稿では、「SCAT」(Steps for Coding and Theorization) [大谷 2008a, 2008b, 2011] の分析手法を応用し、上記のアンケート自由記述欄の回答内容を言語データとして質的に分析する。SCATは、分析手続きを明示化することによって分析過程の省察可能性を高め、結果的に結論への反証可能性を高めることのできる質的研究のためのデータ分析手法である。たった1つのケースしかデータとして持っていない場合や、アンケート調査の自由記述欄のような限られた質的データなど、比較的小規模の質的データの分析にも応用可能とされるものである。

ここでは、学習者の日本語レベルを1つの手がかりとして辞書使用のスキルの養成のポイントを探っていく¹¹⁾。以下、表2～7にレベル別に回答者の回答内容のSCATによる分析過程および分析結果を示す。なお、日本語のレベルについて、ここで「初級」とするのは、日本語学習時間約300時間内のレベルにあたり、「初中級」とは初級の学習を終えた後、日本語能力試験「N4」合格を経て中級へと向かういわゆる「橋渡し」教育の行われるレベルを表す。その後、「中級前期」を経て、「中級中盤」では、終了時におよそ日本語能力試験「N3」合格が目安となるレベルを想定している。それに続く「中上級」は、終了時に同じく日本語能力試験「N2」合格が目安となるレベルである。「上級」はその学習中から終了時にかけて「N1」合格が目安となるレベルであり、さらに「超級」は既に日本語能力試験「N1」に合格しているレベルという区分になる¹²⁾。

SCATを用いた分析では、4段階のコーディングの最終段階の<4>「テーマ・構成概念」で付されたコードを紡ぎ合わせ、現時点で起こっていること、およびその意味や意義を「ストーリーライン」として記述し、さらに「理論記述」を導く。本稿では、ここからさらに各レベルにおける日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイントを抽出することを試みた。

回答者による回答は日本語および英語で記述されているが、その表現は修正せずにそのままデータとして用いている。英語による回答は、分析過程における<2>「テキスト中の語句の言い換え」の段階において日本語の語句に置き換えることとした。また、1つの回答に複数の内容が含まれる場合は、同一回答者の回答でも複数のセグメントに分割して分析している。

4. レベル別分析結果と抽出される辞書使用のスキル養成のポイント

以下、表2には、初級～初中級レベル回答者の回答内容のSCATによる分析結果を、表3には中級前期レベル、表4には中級中盤レベル、表5には中上級レベル、表6には上級レベル、表7には超級レベルの回答者の回答内容の分析結果を順に示している。それぞれのレベルごとに、日本語学習者の辞書使用の現状を「ストーリーライン」によって確認し、そこから導き出された「理論記述」欄の内容をふまえ、各レベルにおける学習者の辞書使用のスキル養成のポイントを考える。

4.1. 初級～初中級レベル

初級～初中級レベル回答者の回答内容の分析は、以下の表2に示す通りである。このレベルは日本語能力試験「N5」から「N4」合格を経て、中級学習へのいわゆる橋渡しとなるレベルまでが含まれる。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状が「ストーリーライン」として導き出された。

＜初級～初中級レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン＞

初級および初中級レベルの学習者は、携帯電話に搭載されている辞書アプリケーションや、インターネットのオンライン辞書などを活用しつつ、多様化する辞書ツールの中で、それらの特徴や使用感の違いを直感的に理解していると考えられる。また、辞書の記載内容の不十分さを自覚的にとらえることもできる。ただし、辞書はあくまで学習の補助手段だとする限定的な辞書の役割観を持つことが、辞書使用に傾倒することへの不安感となって現れている学習者もいる。辞書の基本的な構成についてのオリエンテーションや、辞書使用に関する疑問や不満足感を解決・解消する機会のないままに、辞書をより積極的に活用する可能性を残したまま、手持ちの辞書を継続的・妥協的に使用している側面も見られる。

このような現状から、「辞書の基本的な構成等についてのオリエンテーションが必要な場合がある」および「辞書使用についての疑問が解消できれば、辞書がより積極的・効果的に活用されていく可能性がある」という理論記述が導き出された。そして、このことから、辞書使用のスキル養成のポイントとしては、以下の点が考えられるのではないと思われる。

＜初級～初中級レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント＞

- ・辞書の基本的な構成などについてのオリエンテーションを行う。
- ・多様な辞書ツールの種類や特徴について情報をシェアし、どのような時にどんな辞書が使えるかについて話し合う。

4.2. 中級前期レベル

中級前期レベル回答者の回答内容の分析は表3に示す通りである。このレベルは、初級から中級への橋渡し期間を経て、いわゆる中級学習に本格的に入ったレベルである。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状が導き出された。

＜中級前期レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン＞

中級前期レベルの学習者は、書籍タイプの辞書から電子辞書、PCのアプリケーションやオンライン辞書など使用する辞書ツールは多岐にわたるが、その使用方法には未熟な面も見られる。例えば、キーボードによる日本語入力についてのちょっとした疑問や、操作方法などがすべて日本語で表示される辞書への馴染みにくさなど、操作面に関わらずまづきや不便感などが未解決のままであったり、操作ボタンの位置を覚えてしまうなどの次善の策によってそれを切り抜けている学習者もいる。多機能な電子辞書の限定された機能のみを使用して

いたり、未知の漢字の検索方法についての疑問が未解決のまま辞書使用が継続されている面もある。辞書を見ても言葉の使い方が明確にわからないなどの辞書の記載内容の不十分さに対する気付きはあるが、どのようにそれを解決していくかなど、辞書使用に関する自律的な問題解決の方法は未確立である。

ここからは、「基本的な操作方法や検索方法を未確認のまま使用し続けている場合がある」、「電子辞書の機能のすべてが活用されていない場合がある」および「辞書の記載内容が十分でない場合に次にどうするか、自律的な解決方法は確立されていない」という理論記述が導き出された。このことから、このレベルの辞書使用のスキル養成のポイントとしては、以下のような各点が考えられるのではないだろうか。

＜中級前期レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント＞

- ・ 電子辞書の操作方法やオンライン辞書の検索方法について、疑問点を出し合い、確認する。
- ・ 未知の漢字の意味・読み方を辞書から探し出す方法について話し合い、確認する。
- ・ 辞書を工夫して使用する学習者とはどのような学習者か、学習者像について考え、話し合う。

4.3. 中級中盤レベル

中級中盤レベル回答者の回答内容の分析は表 4 に示す通りである。このレベルでは終了時に日本語能力試験「N3」レベルの合格が目安となる。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状が抽出できた。

＜中級中盤レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン＞

中級中盤レベルの学習者は、書籍タイプの辞書から電子辞書、PC のアプリケーション、オンライン辞書まで幅広く多様な辞書を活用しており、現状の辞書の記載内容についても、語彙数の不足、良質な例文の不足、関連語の情報不足等、客観的に問題点を把握しているようすが見られる。意味だけでなく用法を確認したり、異なるタイプの辞書を組み合わせて使用し、記載されている意味を比較したり、できるだけ多くの例を探すようにし、ウェブを検索して言葉が使われる実際の文脈を確認したりするなど、学習者なりの工夫も編み出している。同種の辞書でもメーカーや機種による仕様の違いがあるため、手持ちの辞書の不便さを補うために、例えば漢字検索の際に漢字についての知識をもとに使い方の工夫を行うなどの方法がとられているものの、ハード面での使い勝手の悪さが煩瑣な使用感を引き起こしていることは否めないようすである。学習者の母語によっては母語と日本語との二言語辞書が整

備されておらず、学習者の母語以外の言語による辞書を便宜的に使用している場合も見られる。

この分析から、「辞書の記載内容の不十分な点が、ある程度客観的に把握されている」「辞書の不足点を補うために、異なる複数の辞書を併用する工夫がなされている」「言葉の使い方を知らするために、例文が重視される」「電子辞書等の仕様の違いについての知識を持つ」「学習者の母語によっては、母語と日本語との二言語辞書がなく、母語以外の言語による辞書を使用している場合がある」という理論記述が導き出された。これらの点を考えると、このレベルにおける辞書使用のスキル養成のポイントとしては、以下のような点を挙げることができる。

<中級中盤レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント>

- ・ 使用している辞書ツールをリストアップし、それぞれの特徴や使い方について情報をシェアする。
- ・ 「未知の漢字を調べる」「ある言葉の使い方が知りたい」などテーマを決め、具体的な例に沿って、どのような辞書ツールをどのように使うことができるか、またその際の問題点やその解決策について話し合う。
- ・ 上級レベルの学習者はどのような辞書をどのように活用しているか、情報を収集し、自分の辞書の使い方との共通点・相違点について考える。
- ・ 電子辞書などを新しく購入する際のチェックポイントをリストアップしてみる。

4.4. 中上級レベル

中上級レベル回答者の回答内容の分析結果は表5に示す通りである。このレベルは、終了時に日本語能力試験「N2」合格が目安となるレベルである。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状があることが導き出された。

<中上級レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン>

中上級レベルの学習者には、電子辞書やオンライン辞書が中心に利用されている。それらの辞書の不便な点としては、調べたい表現が収録されていない、母語による説明がない、記載されている説明が不十分である、またオンライン翻訳サイトの訳が不自然であるなどの点が挙げられているが、複数の辞書を併用して比較したり、目的に応じて複数のオンライン辞書を使い分けるなどの工夫を行っている学習者もいる。電子辞書のユーザーとしては、学習者はその機能の進化についての知識を十分に持っていることがうかがえる。漢字および漢語

についての意識も高く、構成要素となる漢字から語を調べたい時に、手持ちの電子辞書ではその検索方法が十分でないことが不便な点として挙げられている。また、電子辞書には手書き文字認識など利便性の高い機能が備わっているが、その安易な利用を自覚的に避け、漢字の読み方を思い出すなどの努力を行ったり、記憶しておきたい新出漢字を単語帳に登録するなど、電子辞書の機能を学習に活用しているようすが見られる。一方で、漢字の検索方法についての理解が不足しているため、漢字検索についての問題を抱えたままの学習者も見られる。また、使用している辞書には不便な点もあるものの、そのようなものと諦観しているようすの学習者もある。辞書における例文の重要性は複数の学習者によって指摘されており、例文の不足を辞書の問題点として挙げる学習者も複数ある。辞書を調べた時には必ず例文を読むということを継続的に実践していたり、言葉の意味を確認するだけでなく、用例集として辞書を活用するなどの工夫もなされている。ウェブで実際の言葉の使用例を検索する学習者もいる。

この分析からは「電子辞書についてはユーザーとしての知識があり、その機能を自覚的に活用している」「漢字および漢語についての意識が高く、辞書において漢字・漢語を検索するニーズも高い」および「例文を重要視しており、辞書を用例集として活用する工夫も行われている」という理論記述が導き出された。これらのことから、このレベルの学習者の辞書使用のスキル養成のポイントには、以下のような各点が挙げられるのではないかと考える。

<中上級レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント>

- ・ 使用している辞書ツールの利点および弱点について、具体的な例を挙げて話し合う。
- ・ 漢字力、語彙力、文章作成力等を向上させるために、辞書がどのように活用できるかについて考え、話し合う。

4.5. 上級レベル

上級レベル回答者の回答内容の分析結果は、表 6 の通りである。このレベルは学習中から終了時にかけて日本語能力試験「N1」合格が目安となるレベルである。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状があることがわかる。

<上級レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン>

上級レベルの学習者には、電子辞書を中心に、PC のアプリケーションやオンライン辞書などが使用されている。日本語による一言語辞書を活用するなどの方法をとっている学習者

もいるが、外国語を勉強する日本人のために作られたものではない、上級レベルの日本語学習者を対象とした辞書についてもニーズがある。特に漢字力に自信がなく、外国語である英語を媒介とすることも十分にできない学習者のためなどには、学習者の母語と日本語との二言語辞書の整備が望まれる。既存の辞書については、記載されている表現の不自然さ、例文の不足、文法解説の不足、期待する表現の未収録、五十音順の項目配列順序への違和感など、使用者それぞれがいくつかの不便感を抱いている一方、特別の不満も持たない辞書使用者もいる。また、電子辞書のユーザーとして、検索方法の改善などユーザビリティ向上の希望を持つ学習者もある。辞書を使用する際には、母語と日本語の双方向から辞書を引いて関連する表現にも目配りする、コロケーションに注意を払う、用法に注意する、翻訳サイトを利用して文単位で適切な語を選択するなど、それぞれに工夫を行っているようすがうかがえる。

ここからは、「外国語を勉強する日本人のために作られたものではない、上級レベルの日本語学習者を対象とした辞書にもニーズがある」「日本語による一言語辞書を活用するためには、漢字力が必要となる」「既存の辞書に対しては、使用者それぞれに何らかの不便感を持っている」および「辞書を使う際にそれぞれ自覚的に工夫を行って学習を進めている」ということが理論記述として導き出された。このことから、このレベルにおける辞書使用のスキル養成のポイントとしては、以下の各点が挙げられるのではないと思われる。

<上級レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント>

- ・ 普段どのような場合にどんな辞書をどのように利用しているか、情報をシェアし、また問題があった時にそれをどのように解決しているか、あるいは解決できるかについて、話し合う。
- ・ 辞書を活用してできることとできないことについて考え、話し合う。

4.6. 超級レベル

超級レベル回答者の回答内容の分析結果は表7に示す通りである。このレベルは既に日本語能力試験「N1」に合格しており、大学学部レベルの講義も十分に受講可能な熟達度を示すレベルである。このレベルの日本語学習者の回答内容の分析からは、以下のような辞書使用の現状があるのではないかとということが導き出された。

<超級レベルの回答者の辞書使用について：ストーリーライン>

超級レベルの学習者は、電子辞書やオンライン辞書、また書籍タイプの辞書を使用してい

るが、基本的に日本語による一言語辞書を使いこなすことのできる日本語レベルにあると言える。日本語教育の拡がりとともに、国・地域によっては、学習者の母語と日本語との二言語辞書が整備されていない場合もあり、母語で記述されている辞書を見ても十分な説明が得られなかった場合などには、日本語による辞書にあたってみるなどの自覚的な方策もとられている。使用している辞書については、用例の不足を問題点と感ずる場合があることが複数指摘されており、言葉の実際の使い方を学ぶためには例文が欠かせないということが認識されている。辞書を見て、関連する類義語などを同時に学習するという工夫も行われている。オンライン辞書についても意味記述が必ずしも十分ではない場合があることや、現代社会において新しく生まれた表現が、すべて現行の辞書に収録されているわけではないということについても認識されている。

ここからは、「超級レベルの学習者は、日本語による一言語辞書を使いこなすことのできる日本語レベルにある」「用例の充実が重視されている」「言葉の実際の使い方を学ぶためには例文が欠かせないということが認識されている」「既存の辞書の限界が認識されている」という理論記述が導き出された。このことから、このレベルにおける学習者の辞書使用のスキル養成のポイントとしては、以下の各点があるのではないかと考えられる。

<超級レベルにおける辞書使用のスキル養成のポイント>

- ・日本語学習者にとって、どのような辞書ツールがあればより役に立つだろうか、それはなぜかについて話し合う。
- ・初級や中級レベルの学習者、あるいは自分と同じ母語の日本語学習者に対して、辞書の使い方についてアドバイスをするとしたら、どのようなことが考えられるか、話し合う。

5. インタビュー調査の結果から

第1節「研究の目的」で述べたように、本研究においては、文章を書く際の学習者の辞書使用行動を確認するために、インタビュー調査をあわせて行っている(詳細は鈴木 2012a に掲載)。インタビュー調査においては、上級レベルの複数の回答者が、言いたい表現を探し出すために漢字の知識が有益であることを指摘している。上記アンケート回答者のうち中上級レベルの回答者の一人(表5の番号7)も、「ある1つの漢字が含まれる語をすべて調べたい」という場合を、使用している辞書の検索機能が十分ではないということを述べる際に示している。これらのことは、漢字および漢語表現に習熟することが、特に中級以上のレベルにおいて文章表現を行う際に、学習者が言いたい表現を見つけるための方策として役に立つのではないかとすることを

示していると思われる。

インタビューにおいて上級学習者の挙げた例としては、例えば、「誘う」という意味を表す漢語表現を見つきたい時には、「誘（ゆう）」の漢字が含まれる漢語を調べてみるということが挙げられた。また、「音楽 CD にある曲が“入っている”」ことを漢語を使って表現したい場合などには、「記事を“掲載”する」あるいは「機能を“搭載”している」などの既知の表現があれば、それらの漢語がこの場合に使用可能かどうかという点から調べていくことができるとしている。あるいはこれらの語に共通の「載」という漢字に着目し、同様に「載」を含む漢語にどのようなものがあるか探っていくことができるということが指摘されている。

他にも、例えば「書くこと・作ること」を表す漢語動名詞を見つきたい時には、もし「著作権」という漢語の知識があれば、そこから「著作」が「する」を付けて動詞化できる語かという点を辞書で確認するという例が挙げられている。また、「著作権」という語を知らなくとも、「著」という漢字の読み方と意味についての知識があれば、この漢字を構成要素として含む漢語を作り、それが日本語としての的確な表現であるかどうかを調べることもできるという例が挙げられた。

これらの例からわかるのは、漢字を、漢語を構成する要素（字音形態素）として認識することの重要性であろう。漢字の意味、読み方（漢語を形成するという観点からは、特にその音読み）はもちろんのこと、その漢字を構成要素として含む漢語の知識を幅広く身に付けていくことは、その知識を応用し、表現したい意味を表す的確な漢語表現を辞書から探し出す際に役立つ。これは特に中級以上のレベルにおいて、文章表現に辞書を活用する際の方策として重要であると思われる。

表 2 初級～初中級レベル回答者の回答内容の SCAT による分析

番号	レベル	性別	アンケート回答者				回答内容		<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念
			国籍	母語1	母語2	専門	普段よく使用する辞書 ⁽⁴⁾ ◎非常によく ○よく △時々	辞書を使う際 不便だと感じること				
1	初級	男	スイス	オランダ語 フランス語	英語	美術	ケイタイ◎ PC◎ オンライン◎	I think an electronic dictionary is much more easier and convenient to use than a cellphone.	異なる辞書の使用感の違いの認識。	認識と実際の使用辞書とのずれ、直感的理解、妥協的認識しながらの継続使用、妥協的使用。	多様化する辞書ツール、特徴や使用感の違い、直感的理解、継続的・妥協的な辞書の使用	
2	初級	男	カナダ	フランス語	英語	建築・デザイン	ケイタイ◎ オンライン◎	I don't know why Kotoba dictionary for iphone never shows any "ます" form for the verbs.	辞書における見出し語の形に対する疑問。	辞書についての基本的理解の不足、疑問未解決のままの継続的使用、疑問解決の機会不足。 如、オリエンテーション	辞書の基本的構成、オリエンテーション、辞書使用に関する疑問、解決・解消する機会。	
3	初中級	男	カナダ	フランス語	英語	国際関係	ケイタイ◎ オンライン△	Sometimes, the nuance is strange or wrong for new words I learn from dictionary.	辞書で学んでも語のニュアンスが正確につかみきれないことへの現状への不満。	辞書の記述の不十分さ、非自覚的、辞書の記述の不十分さに気付くことのできる学習者の言語感覚、ニュアンスへの直感的理解。	記載内容の不十分さ、自覚的。	
4	初中級	女	フィンランド	フィンランド語	英語	心理学	ケイタイ◎ PC◎ オンライン◎	If you use it too often you don't remember the word ...	辞書使用の自らの学習に与える影響の懸念。	辞書使用に傾倒することへの不安感、学習ツールである辞書の補助的役割としての役割の弱体化、学習の非自覚性。	学習の補助手段、限定的な辞書の役割、不安感、積極的な活用。	
<p>初級および初中級レベルの学習者は、携帯電話に搭載されている辞書アプリケーションや、インターネットのオンライン辞書などを活用しつつ、多様化する辞書ツールの中で、それらの特徴や使用感の違いを直感的に理解して利用していると考えられる。また、辞書の記載内容の不十分さを自覚的にとらえることもできる。ただし、辞書はあくまで学習の補助手段とする限定的な辞書の役割を持つことが、辞書使用に傾倒することへの不安感となつて現れている学習者もいる。辞書の基本的な構成についてのオリエンテーションや、手持ちの辞書を継続的・妥協的に活用する可能性を残したまま、手持ちの辞書を継続的に活用する可能性も見られる。</p>												
<p>理論記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書の基本的な構成等についてのオリエンテーションが必要な場合がある。 辞書使用についての疑問が解消できれば、辞書がより積極的・効果的に活用されていく可能性がある。 												

一留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して—：鈴木 智美

表 3 中級前期レベル回答者の回答内容の SCAT による分析

番号	アンケート回答者				回答内容		辞書を使う際の工夫	〈I〉テキスト中の注目すべき語句	〈II〉テキスト中の語句の言い換え	〈III〉左を説明するようなテキスト外概念	〈IV〉フォーマット構成概念		
	レベル	性別	国籍	母語1	母語2	専門						普段よく使用する辞書	
1	中級前期	女	シリア	アラビア語	英語	言語学, 社会学	書籍◎ PC△ オンライン○	when using online dictionary, I don't know sometimes how to enter the word in Japanese using the keyboard like in the word (せっしん), entering the (っ) then (sh) is not working.	I memorize where the buttons are because I can't read the menu screens (all Japanese).	online. don't know. how to enter the word. using the keyboard.	キーボードを使った日本語入力方法の速い、とまどい、	日本語のキーボード入力に関する疑問未解決のままのオンライン辞書の使用、確認する身近な機会欠如。	キーボードによる日本語入力の疑問。未解決。
2	中級前期	男	オーストラリア	英語	英語	会計学	電子辞書◎	I memorize where the buttons are because I can't read the menu screens (all Japanese).	操作方法的工夫、目標言語のみで表示される辞書を使用していくための代替策。	memorize where the buttons are. can't read the menu.	操作方法的工夫、目標言語のみで表示される辞書を使用していくための代替策。	ストレスなく理解可能な言語による操作表示に頼りたいため、やれを得ない方針による切り抜け。	操作的方法、日本語での表示、動機、読みにくさ、改善の策。
3	中級前期	男	オーストラリア	英語	英語	会計学	電子辞書◎	All Japanese. But I only use one of the many dictionaries inside. I also don't know how to use many of its other functions (all Japanese).	日本語の説明が理解できないため、辞書の機能の未使用のままの放置。	all Japanese. only use one. don't know how to use. other functions.	電子辞書の機能の全ては使いこなしてない学習者の未発覚の機能の未発見。	多機能な電子辞書、限定された機能のみの使用。	
4	中級前期	女	シリア	アラビア語	英語	言語学, 社会学	書籍◎ PC△ オンライン○	Another thing is that I don't know how to look up a Kanji that I don't know in a Kanji dictionary. It's hard to keep looking for that Kanji specifically.	未知の漢字を検索することの困難さへの不満足、解決方法がままの状況の継続。	don't know how to look up a Kanji that I don't know.	辞書使用に関わる基本的な問題（未知の漢字の検索方法）の未解決のままの放置。	未知の漢字の検索方法。未解決。	
5	中級前期	女	イギリス	英語	英語	日本語, 日本文化	書籍◎ ケイタイ△ オンライン◎	Occasional awkwardness - it's not always clear on the correct usage of a word.	言葉の使い方がわからないことへの不満足感。	awkwardness. not always clear. correct usage	学習者が求める言葉の用法について「わかった」感、辞書の記載内容の不十分さへの不満足感、自律的な解決方法の未確立。	言葉の使い方、記載内容の不十分さ、自律的な解決方法。未確立。	

<p>ストーリーライン</p>	<p>中級前期レベルの学習者は、書籍タイプの辞書から電子辞書、PCのアプリケーション辞書など使用する辞書ツールは多岐にわたるが、その使用方法には未熟な面も見られる。例えば、キーボードによる日本語入力についてのちよつとした疑問や、操作方法など辞書への馴染みにくさなど、多機能な電子辞書の固定された機能のみを使用していたり、最初の選定の際に位置を覚えてしまつた次の辞書へ切り替えている学習者もいて、言葉の使い方が明確にわからないなどの辞書の記載内容の不十分さに対する気付きはあるが、どのようにそれを解決していくかが、辞書使用に関する自律的な問題解決の方法は未確立である。</p>
<p>理論記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な操作方法や検索方法を未確認のまま使用し続けている場合がある。 電子辞書の記載内容が十分に活用されていない場合がある。 辞書の記載内容が十分でない場合に来ようとするが、自律的な解決方法は確立されていない。

表 4 中級中盤レベル回答者の回答内容の SCAT による分析

番号	性別	国籍	母語1	母語2	アンケート回答者			回答内容				
					専門	書格よく使用する辞書 ◎非常によく ○よく △時々	辞書を使う際 不便だと感じること	辞書を使う際の工夫	1) テクニクス中の 注目すべき語句	2) テクニクス中の 語句の言い換え	3) 左を説明するよう なテクニクス外的概念	4) テーマ・ 構成概念
1	中級中盤 男	タイ	タイ語		教育学	書籍○ PC◎ オンライン◎	If there is a dictionary application which has much enough vocabularies and also a lot of good example sentences, it will be much more comfortable to study foreign languages.		much enough vocabularies. a lot of good example sentences. much more comfortable.	望まれる十分な語彙数と例文、使いやすいため外国語学習者の認識、不満足感。	理想的な辞書についての認識、現状とのギャップ。	語彙数の不足、良質な例文の不足。
2	中級中盤 男	中国	中国語		教育学	書籍△ 電子辞書◎ PC◎	例がすくない、同じな例が多い		例、すくない、同じ。	例文の不十分さへの不満。	豊富かつ的確な例文の必要性の自覚、使いやすくない辞書との未遭遇。	例文の不足。
3	中級中盤 男	タイ	タイ語		教育学	書籍○ PC◎ オンライン◎	The dictionary application I am using does not have a word of antonym and synonym, and example sentences.		not have. antonym and synonym. example sentences.	辞書に期待する記載情報の現状での不足の認識。	辞書に望まれる記載情報を語彙論的に把握して学習者。	例文の不足、関連語の情報不足、問題点の客観的な把握。

—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して— 鈴木 智美

4	中級 中盤	女	トルコ	トルコ語	英語	文学 経営学	書籍○ 電子辞書○ PC○ オンライン○		looking at the meaning and then check for usage. Sometimes I use both at the same time (electronic-online) to compare the meanings or choose which is more clear to me. Try to find as many examples as possible, and try to google the word on Japanese websites to see it used in context.	check for usage. use both. compare the meanings. as many examples as possible. websites used in context.	学習者が求める言葉の「用法」についての情報。 単独の辞書の限界の認識。複数の辞書を使用する学習方法の編み出し。 例文の重視。文脈の中での言葉の使い方の確認。自分なりの工夫された方法の確立。	用法の確認の必要性。 辞書をめぐぐる学習上の工夫の自覚的確立。 インターネット上の生の日本語の利用。	用法の確認。 異なるタイプの辞書。記載された意味の比較。工夫。 多くの例。ウェブ検索。文脈。	
5	中級 中盤	男	メキシコ	スペイン語	英語	教育学	電子辞書○ オンライン○							
6	中級 中盤	ボーンド	ボーンド	ポンド語	英語	日本語・ 日本文化・ ドイツ語	電子辞書○ PC○ オンライン○							
7	中級 中盤	アメリカ合衆国	英語		国際関係		電子辞書○ オンライン○		When I am looking for the reading of Kanji on my electronic dictionary, I have trouble because it has no writing touchpad and I have to guess or search by stroke number and radicals.	looking for the reading of Kanji. trouble. no writing touchpad.	仕様の異なる辞書についての知識。辞書所有する辞書の使用感への不満。読めない漢字を画数や部首から探すことへの煩瑣感。	仕様の違い、漢字についての知識。使い方の工夫。ハード面での使い勝手。画数、煩瑣な使用感。		
8	中級 中盤	女	ラオス	ラオス語	日本語・ 日本文化		書籍○ PC○		使っているじしょは自国語じゃないので、意味がよく考えられない。(5)	自国語じゃない、考えなければならぬ。	不便さの中で自国的、継続的使用。	母語と日本語との二言語辞書の非整備状況。	母語と日本語との二言語辞書。便宜的な使用。	
		ストーリーライン		<p>中級中盤レベルの学習者は、書籍タイプの辞書から電子辞書、PCのアプリケーション、オンライン辞書まで幅広く多様な辞書を活用しており、現状の辞書の記載内容についても、語彙数の不足、関連語の情報不足等、客観的に問題点を把握しているように見られる。意味だけでなく用法を確認したり異なるタイプの辞書を組み合わせて使用し、記載されている意味を比較したり、できるだけ多くの例を探そうとしたり、ウェブを探索して言葉が使われる実際の文脈を確認したりするなどの、学習者なりの工夫も編み出している。同種の辞書でもメーカーや機種による仕様の違いがあるため、手持ちの辞書の不便さを補うために、例えば漢字検索の際に漢字についての知識をもとに使い方の工夫を行うなどの方法がとられているものの、ハード面での使い勝手の悪さが煩瑣な使用感を引き起こしていることは否めないようである。学習者の母語によっては母語と日本語との二言語辞書が整備されておらず、学習者の母語以外の言語による辞書を使用している場合も見られる。</p>										
		理論記述		<ul style="list-style-type: none"> 辞書の記載内容の不十分な点がある程度客観的に把握されている。 辞書の不十分な点を補うために、異なる複数の辞書を併用する工夫がなされている。 言葉の使い方を知るために、例文が重視される。 電子辞書等の仕様の違いについての知識を持つ。 学習者の母語によっては、母語と日本語との二言語辞書がなく、母語以外の言語による辞書を使用している場合がある。 										

表 5 中上級レベル回答者の回答内容の SCAT による分析

番号	性別	アンケート回答者				回答内容		〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなデファスト外の概念	〈4〉テーマ・構成概念
		国籍	母語1	母語2	専門	普段よく使用する辞書	辞書を使う際、不便だと感じること				
1	中上級	中国	モンゴル語	中国語	言語学 地尊文化	書籍△ 電子辞書◎ ケイタイ△ PCO オンライン○	電子辞書とネット辞書で様々な詞がありませんが不便だと感じています	様々な詞がありませんが、不便、	指す表現が見つからないことへの不便感、辞書の境界、	辞書の記載項目の限界、	表現の未収録、
2	中上級	ブルガリア	ブルガリア語		日本語・ 日本文化	電子辞書○ オンライン◎	母語の説明はない。	母語の説明はない。	母語による説明への指向性、母語と日本語との二言語辞書の不足、	母語による説明への不足、	母語による説明、
3	中上級	ウズベキスタン	ロシア語		日本語・ 日本文化	書籍◎ 電子辞書△ オンライン○	和辞と盛和辞典において言葉の説明が足りない	和辞・盛和辞典、言葉の説明が足りない、	母語と日本語との二言語辞書における説明不足への不満感、	双方向の二言語辞書の使用、ニーズの非充足、	説明の不十分、
4	中上級	インドネシア	インドネシア語	ジャワ語	日本語・ 日本文化	電子辞書◎ ケイタイ◎ オンライン○	時々訳した言葉は少しおかしい気がする。16)	訳した言葉は少しおかしい、	翻訳サイトの訳の不完全さの認識、	オンラインの翻訳サイトの妥協的使用、	オンライン翻訳サイトの、不自然、
5	中上級	イタリア	イタリア語		日本語・ 日本文化	電子辞書◎ PCO オンライン◎	I usually compare the word I'm looking for in different dictionaries, especially if I'm translating a text and then I choose the most appropriate correspondent word in my own language.	compare the word in different dictionaries. choose the most appropriate correspondent word.	複数の辞書の自覚的な使用、的確な表現を選択するための表現例の比較、	複数の辞書を併用し比較する自覚的な活用方法の確立、	複数の辞書、併用、比較、
6	中上級	リトアニア	リトアニア語	英語	日本語・ 日本文化	ケイタイ○ オンライン◎	'goo.ne.jp' is good to get the reading, then I use 'alc' to get a broader sense of usage and see example sentences. I use 'rikai.org' when reading internet articles.	目的に応じた複数のオンライン辞書の使い分け、用例と例文の重要性の認識、	辞書使用の目的の自覚、複数の辞書の併用、	目的、オンライン辞書、使い分け、	

一留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄のSCATによる質的分析を通して—：鈴木 智美

7	中上級	男	イタリア	イタリア語	イタリア語	日本語・日本文化 日本文学	電子辞書◎	EX-WORD DATAPLUS3で一つの漢字で使われた単語を全て調べたかったら、この漢字で始まる単語しか聴けません。(漢字十?→0K、?+漢字→X、?+漢字+?→X) 17)	(電子辞書) 漢字を調べる場合にはハンドで漢字を書いて調べるときに、読み方を思い出します。	(電子辞書) 初めて見た漢字を役に立てれば単語帳に保存します。	一つ一つの漢字で使われた単語を全て調べたい。	漢語帳に保存。	漢語を構成する要素(字音形態素)として漢字の認識。構成要素となる漢字から漢語を構築したという二一文字。	漢字および漢語の知識の重要性。言い換え表現を採り出す工夫。前方一致検索の限界。	漢字および漢語の知識の重要性。言い換え表現を採り出す工夫。前方一致検索の方法。
8	中上級	男	イタリア	イタリア語	日本語・日本文化 日本文学	電子辞書◎					調べる前に読み方を思い出します。	調べる前に読み方を思い出します。	安易な検索を自動的に回避する努力。	利便性の高い機能がもたらし得る影響の自覚。	手書き文字認識。利便性の高い機能。自覚的努力。
9	中上級	男	イタリア	イタリア語	日本語・日本文化 日本文学	電子辞書◎					単語帳に保存。	単語帳に保存。	自分の学習ツールとしての電子辞書のカスタマイズ。	自律的に工夫された学習方法。	電子辞書の機能の活用。
10	中上級	男	イギリス	英語	美術 (日本画)	電子辞書○ オンライン△	少し古い物なので、直接入力ができなくて、漢字を調べたら、線の数などで調べるほかはない。時間がかかる。				漢字の読み方がわからないとき、調べることができない。	漢字の読み方がわからないとき、調べることができない。	手書き文字認識など利便性の高い辞書機能と比較した場合の現有辞書の性能へのマイナス評価。	電子辞書の機能の進化。	電子辞書。ユーザ一。機能の進化。
11	中上級	女	中国(香港)	広東語	中国語	日本語・日本文化	電子辞書○ オンライン△	漢字の読み方がわからないとき、調べることができない。			漢字の読み方がわからないとき、調べることができない。	漢字の読み方がわからないとき、調べることができない。	漢字検索方法についての理解不足。	漢字検索方法についての理解不足。	漢字の検索方法。理解不足。
12	中上級	女	ロシア	ロシア語	日本語・日本文化 哲学 文化史	電子辞書◎ オンライン◎	会話や本を調べるときは必要がこままっているけど、使わなから... 18)				会話や本を読む時、こままっている。	会話や本を読む時、こままっている。	不慣れな辞書の使用。	現状の辞書の限界への認識。妥協的な使用の継続。	辞書。
13	中上級	女	中国(香港)	広東語	中国語	日本語・日本文化	電子辞書◎ オンライン△	必ず例文を読むことにしています。詞性19)			必ず例文を読む。	必ず例文を読む。	例文の重要性の認識。自覚的な学習方法の継続的実践。	言語学習における例文の意義。	例文を読む。継続的な実践。
14	中上級	男	フランス	フランス語	日本語・日本文化 国際関係 政治学 経済学	書籍△ 電子辞書◎		一番大事なものは例文をよく読むと思い出します			例文をよく読む。	例文をよく読む。	例文の重要性の認識。	学習者の学習観。	例文の重要性。
15	中上級	女	中国	韓国語	中国語	電子辞書◎ PC◎ オンライン◎		例文をたくさんみたいから、単語の意味を知っているだけでも調べることが多い。			例文をたくさんみたい。意味を知っているだけでも調べたい。	例文をたくさんみたい。意味を知っているだけでも調べたい。	例文の意義。学習者の自覚的な活用による意味の確認を越えた辞書の役割。	例文の活用。	例文としての辞書の活用。

16	中上級	中国(香港)	広東語	中国語	日本語・日本文化	電子辞書◎ オンライン△	例文が足りないこと		例文が足りない	現状の辞書の例文不足についての認識	例文の重要性	例文の不足
17	中上級	中国	フランス	フランス語	日本語・日本文化 国際関係 政治学 経済学	書籍△ 電子辞書◎	時々例文が足りない		例文がたりない	辞書の例文不足の認識	例文の必要性	例文の不足
18	中上級	中国	ブルガリア	ブルガリア語	日本語・日本文化	電子辞書○ オンライン◎		googleでどんな場合使えるかさがすことなどである。	googleでどんな場合 合使えるかさが す。	言葉の使用例を探 すためのウェブ検 索の利用	ウェブ検索の活用	ウェブ使用例、検 索
<p>ストリーライン</p> <p>中上級レベルの学習者には、電子辞書やオンライン辞書が中心に利用されている。それらの辞書の不便な点としては、調べたい表現が収録されていない、母語による説明がない、記載されている説明が不十分である、またオンライン翻訳ソフトの訳が不自然であるなどの点が見られる。複数の辞書を併用して比較したり、目的に応じて複数のオンライン辞書を使い分けるなどの工夫を行っている学習者もいる。電子辞書の進化に伴って、学習者はその機能の進化した知識を十分に持っていることがうかがえる。漢字および漢語についての意識も高く、構成要素となる漢字から語を調べたい時には、手持ちの電子辞書ではその検索方法が不便な点として挙げられている。また、電子辞書には手書き文字認識などの利便性の高い機能が備わっているが、その安易な利用を自覚的に避け、漢字の読み方など、努力を行ったり、記憶しておくべき新しい新出漢字を単語帳に登録するなど、電子辞書の機能を学習に活用しているようすが見られる。一方で、漢字の検索方法についての理解が不十分であるため、辞書における例文の重要性は複数の学習者によって指摘されており、例文の不足を辞書の問題点として挙げている学習者もいる。また、辞書における例文の不足を辞書の問題点として挙げる学習者も複数ある。辞書を調べた時には必ず例文を読むというように、辞書の意味を確認するだけでなく、用例集として辞書を活用するなどの工夫もなされている。ウェブ上で実際の言葉の使用例を検索する学習者もいる。</p>												
<p>理論記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子辞書についてはユーザーとしての知識があり、その機能を自覚的に活用している。 ・漢字および漢語についての意識が高く、辞書において漢字・漢語を検索するニーズも高い。 ・例文を重要視しており、辞書を用例集として活用する工夫も行われている。 												

—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄のSCATによる質的分析を通して— 鈴木 智美

表6 上級レベル回答者の回答内容のSCATによる分析

番号	アンケート回答者			回答内容		1) テキスト中の注目すべき語句	2) テキスト中の語句の言い換え	3) 左を説明するようなテラクトの概念	4) テラクトの構成概念
	性別	国籍	母語1	母語2	専門				
1	上級	カンボジア	カンボジア語	カンボジア語	言語学	外国語を勉強する日本人か日本語を母語とする人のため	日本語学習者に対する対象としての辞書ではないことへの気付きと不満感	上級レベルの日本語学習者を対象とした辞書	
2	上級	カンボジア	カンボジア語	カンボジア語	言語学	辞書で説明する説明も認めなく(漢字ばかり書かれるから)もっと分からなくならない。英語も分からない。	目標言語(日本語)や外国語(英語)で書かれた辞書への不満感、困惑	日本語による一言語辞書や、日本語と英語との二言語辞書からの疎外感	漢字力・英語、母語と日本語との二言語辞書
3	上級	チェコ	チェコ語	チェコ語	日本語・日本文化	和チェコ、チェコ和辞書がほしいです	和チェコ、チェコ和辞書がほしい、認識	母語と日本語との二言語辞書の不足	母語と日本語との二言語辞書
4	上級	イタリア	イタリア語	イタリア語	日本語・日本文化	携書の辞書には不可能ですが、伊和・和伊辞典を使う時、引いた項目に満足していません。直接に国語の辞典に調べます。	母語の日本語との二言語辞書の記載内容の不足の認識。日本語による一言語辞書を活用できる日本語レベルにある学習者	日本語による一言語辞書と日本語による一言語辞書の活用	
5	上級	ベトナム	ベトナム語	ベトナム語	日本語・日本文化	言葉づかいはあまりありません	言葉づかいはあまりありません	辞書の記載内容の十分さ・不自然さ	表現の不自然さ
6	上級	ブルガリア	ブルガリア語	英語	日本語・日本文化	時々例文が足りないケースもある	例文が足りないケースもある	十分な例文の必要性	例文の不足
7	上級	ミャンマー	ミャンマー語	中国語	日本語・日本文化	文法があまりのせていない	文法があまりのせていない	学習者による辞書使用の目的の多様性	文法解説の不足
8	上級	カンボジア	カンボジア語	言語学	言語学	現代の言葉が載っていないこと	現代の言葉が載っていない	辞書記載項目と現実社会における言語使用の差	期待する表現の未収録
9	上級	ポーランド	ポーランド語	英語	日本語・日本文化	Sometimes I feel awkward and incompetent if a dictionary is organised with Kana, not Alphabet.	あいうえお順の構成への馴染みにくさ、アルファベット順への親近感	アルファベット順と五十音順との隔たり	五十音順の項目配列順序への違和感
10	上級	モンゴル	モンゴル語	日本語	日本語・日本文化	ふつう	辞書についての特異な期待や依存をしない	学習ツールに過度に期待や依存をしない	特別な不満を持たない辞書使用者

11	上級	男	イタリア	イタリア語	(回答なし)	電子辞書◎	まらち検索を使いやすくしてほしい。画面を見やすく工夫してほしい。	まらち検索を使いやすく、画面を見やすく、	母語と日本語の両方	電子辞書の使いやすさの向上への希望。	電子辞書ユーザーとしての日本語学習者、ユーザーザビリティ向上。	電子辞書のユーザーと日本語との関係。
12	上級	女	中国	中国語	日本語、日本文化	電子辞書○ PC、オンライン	同じ意味で母語と日本語両方の単語を調べると、勉強に役立ちます。2)	母語と日本語両方の単語を調べる。	母語と日本語の両方向から辞書を確認する学習方法を編み出し、	辞書を使用する際の自覚的な学習方法の編み出し、	母語と日本語、双方向、関連する表現。	
13	上級	ウズベクスタ ン	ウズベク語	ロシア語	日本語、日本文化	電子辞書◎	言葉の訳と同時に一緒に使われる言葉も調べておく	一緒に使われる言葉も調べておく、	コロケーションの重要性への気付き、	辞書を使用する際の自覚的な学習方法の実践。	コロケーション、	
14	上級	ルーマニア	ルーマニア語	英語、日本語	日本語、日本文化	書籍△ ケイタイ△ PC◎	できるだけ実際の使い方を調べ、自分がどのように使った方がいいかを考えます。	実際の使い方を調べ、どのよう使った方がいいかを考えます。	言葉の用法の重視、自律的な学習態度。	自律的な学習態度。	用法、	
15	上級	スウェーデン	スウェーデン語	英語	日本語、日本文化	電子辞書◎ オンライン○	When the jisho shows several similar words, I write the search word in google translate (in a sentence) to see which word it chooses.	similar words, write the search word in google translate.	類義表現の確認、翻訳サイトの活用。	文脈に適した表現の選択。	翻訳サイトの活用、適切な語の選択。	
							上級レベルの学習者には、電子辞書を中心に、PCのアプリケーションやオンライン辞書などが使用されている。日本語による一言語辞書を活用するなどの方法をとっている学習者もいるが、外国語を勉強する日本人のために作られたものではない、上級レベルの日本語学習者を対象とした辞書についてもニーズがある。特に漢字刀に自信がない、外国語である英語を媒介とすることも十分にできない学習者のためなどには、学習者の母語と日本語との一言語辞書の整備が望まれる。既存の辞書については、記載されている表現の不自然さ、例文の不足、文法解説の不足、期待する表現の未収録、五十音順の項目目録列順など、使用者それぞれがいくつもの不便感を抱いている一方、特別の不満も持たない辞書使用者もいる。また、電子辞書のユーザーとして、検索方法の改善などユーザーザビリティ向上の希望を持つ学習者もある。辞書を使用する際には、母語と日本語の双方向から辞書を引いて関連する表現にも目配りする、コロケーションに注意を払う、用法に注意する、翻訳サイトを併用して文単位で適切な語を選択するなど、それぞれに工夫を行っているようすがうかがえる。					
							理論記述	・外国語を勉強する日本人のために作られたものではない、上級レベルの日本語学習者を対象とした辞書にもニーズがある。 ・日本語による一言語辞書を活用するためには、漢字力が必要となる。 ・既存の辞書に対しては、使用者それぞれに何らかの不備感を持っている。 ・辞書を使う際にそれぞれ自覚的に工夫を行うことで学習を進めている。				

—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して— 鈴木 智美

表7 超級レベル回答者の回答内容の SCAT による分析

番号	レベル	性別	アンケート回答者				回答内容		<I>テキスト中の注目すべき語句	<II>テキスト中の語句の言い換え	<III>左を説明するようなテキスト外の概念	<IV>テーマ構成概念	
			国籍	母語1	母語2	専門	普段よく使用する辞書	辞書を使う際不便だと感じる点					辞書を使う際の工夫
1	超級	ウズベク ウズベク ウズベク	ウズベク語	ロシア語	国際関係	書籍○ 電子辞書◎ オンライン△	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	<I>テキスト中の注目すべき語句 日本語で説明している辞書を使うところがある。	<II>テキスト中の語句の言い換え 媒介言語を通さず日本語による一言語辞書を使用していることとする方策の実践。	<III>左を説明するようなテキスト外の概念 超級レベルの学習者としての辞書使用方法の工夫。	<IV>テーマ構成概念 日本語による一言語辞書。	
2	超級	韓国	韓国語	韓国語	日本語・ 日本文化 日本文学	書籍△ 電子辞書◎ オンライン○	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	日本語の国語辞典でもう一回言葉を探す。	日本語と母語との二言語辞書と日本語の併用。	母語で記述されている辞書・日本語による一言語辞書。		
3	超級	アゼルバイジャン	アゼルバイジャン語	トルコ語、ロシア語	日本語・ 日本文化	書籍△ 電子辞書△ オンライン○	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	母語と日本語の辞書がありませぬ。国語辞典で調べて、母語で言えない場合がある。	母語と日本語との二言語辞書がないことへの不満。超級レベルの学習者の期待に応えられない辞書の不足。	日本語教育の拡がり。学習者の母語と日本語との二言語辞書の整備の遅れ。超級レベルの学習者の期待に応えられない辞書の不足。	日本語教育の拡がり。学習者の母語と日本語との二言語辞書の整備の遅れ。超級レベルの学習者の期待に応えられない辞書の不足。	
4	超級	ロシア	ロシア語	ロシア語	日本語・ 日本文化 翻訳通訳	書籍△ 電子辞書◎ PC◎	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	時々具体的な例が足りない。	例文不足の認識と不満感。	用例の重要性。	用例の不足。	
5	超級	中国	中国語	中国語	日本語・ 日本文化	電子辞書◎ PC△ オンライン△	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	例文少ない。	十分な例がないことへの不満感。	十分な例文の必要性。	例文。	
6	超級	韓国	韓国語	韓国語	日本語・ 日本文化	電子辞書◎ ケイタイ△ PC◎ オンライン○	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	例文なしで、意味だけ書いてある場合。	例文の必要性の認識。例文のない辞書への不満感。	例文の必要性。 例文の用法の重視。	例文。 言葉の実際の使い方。	
7	超級	韓国	韓国語	韓国語	日本語・ 日本文化	電子辞書◎ ケイタイ△ PC◎ オンライン○	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	その言葉がどのように使われているのか、勉強することが大切。	用法を身に付けることの重要性の認識。	言葉の用法の重視。	言葉の実際の使い方。	
8	超級	中国	中国語	中国語	日本語・ 日本文化	電子辞書◎	辞書を使う際不便だと感じる点	辞書を使う際の工夫	にている単語も覚えていない。	類義表現も同時に学習する工夫の編み出し。	類義語など関連語を含めた記憶方法の実践。	類義語。	

9	超級	女	韓国	韓国語	日本語・ 日本文学 日本文学	書籍△ 電子辞書◎ オンライン○	文語的な表現は梁せるが、新しくできた言葉・表現はのっぴきなくて意味がわからなくなったりする。(そのようなくだりだけ表現を辞書にのせるかどうかは考えるべきかもしれない)	新しくできた言葉・表現はのっぴきなくて意味がわからない。	現代社会で使われる新しい表現を身に付けたという意識に十分に応えられない辞書への不満感。	新しい表現を辞書に収録するか否かという辞書記載項目の選定の難しさ。	新しく生まれた表現・辞書への未収録。
10	超級	女	インド	ヒンディー語	日本語・ 日本文学	電子辞書○	I can't really find good meanings on google dic.	can't find good meanings on google dic.	オンライン辞書への不満感。	オンライン辞書の限界。	オンライン辞書・意味記述の不十分さ。
<p>超級レベルの学習者は、電子辞書やオンライン辞書、また書籍タイプの辞書を使用しているが、基本的に日本語による一言語辞書を使いこなすことのできる日本語レベルにあると言える。日本語教育の拡がりとともに、国・地域ごとの母語と日本語との二言語辞書が整備されていない場合もあり、母語で記述されている辞書を見ても十分な説明が得られなかった場合などには、日本語による辞書に当たってみるなどの自覚的な方策もとられている。使用している辞書については、用例の不足を問題点と感ずる場合があるという工夫も行われている。オンライン辞書については例文が欠かせないというものが認識されている。辞書を見て、関連する類義語などを同時に学習するという工夫も行われている。オンライン辞書についても意味記述が必ずしも十分ではない場合があることや、現代社会において新しく生まれた表現が、すべて現行の辞書に収録されているわけではないということについても認識されている。</p>											
<p>・超級レベルの学習者は、日本語による一言語辞書を使いこなすことのできる日本語レベルにある。 ・用例の充実に重視されている。 ・言葉の実際の使われ方を学ぶためには例文が欠かせないということが認識されている。 ・既存の辞書の限界が認識されている。</p>											
<p>理論記述</p>											

6. 今後の課題

本稿では、辞書の使用についてのアンケート調査の自由記述欄の回答を、「SCAT」を応用し質的に分析することを通じて、学習者の辞書使用のスキルを養成する際のポイントを日本語レベルを1つの手がかりとして具体的に提案した。細かい違いはあるが、レベルを通じて共通に言えるのは、多様な辞書ツールについて、それを実際にどのように使っているか、問題点や工夫している点を含め、学習者同士で情報をシェアしていくということではないだろうか。

ここで導き出された結論は、日本国内の大学で日本語を学ぶ留学生延べ56名のアンケート調査自由記述回答に基づく範囲のものではある。しかし、その回答を分析するにあたり「SCAT」を分析のツールとして用いたことの意義は、大谷（2008b, 2011）でも述べられているように、どのような場合にも普遍的に適用可能な一般原理を提示するというところにあるのではなく、むしろそのデータから言えることを、他の教育現場や他の場合においてはどうか、その「比較可能性」と「翻訳可能性」とを詳細な記述を通じて担保しつつ、提示するというところにある。今後はここで導き出した辞書使用のスキル養成のポイントを、実際に日本語教育の現場で検証していくとともに、「Can-do」の「書く」活動に関わる方策として、辞書使用に関する記述を具体的に考えたい。

学習者においては、自らの日本語学習において辞書ツールをどのように使用するかを自覚的にとらえ、自律的学習の確立に役立てていくことは有益であると思われる。また、学習者それぞれの行っている辞書使用の工夫は、他の学習者にとっても参考になる点が多い。学習者同士はもとより、教師にとっても、日本語学習における学習者の辞書使用についての理解を深め、その活用を支援していくことが求められるだろう。

注

- 1) 「辞書」とは、書籍タイプのものでなく、電子辞書、携帯電話のアプリケーション、PCのアプリケーション、オンライン辞書などを広く含めたものとする。
- 2) アンケート調査の詳細については、鈴木（2012b）を参照。
- 3) インタビュー調査の概要については、鈴木（2012a）に所載。上記アンケート回答者の中から8名に、普段どのような辞書をどのように使用しているか、辞書を使いながら書いた作文等を実際に見せてもらいながら、それぞれの辞書の使い方について確認した。（1名については、アンケート調査に先立って、インタビュー調査についてのみ協力を得ている。）
- 4) 例えば、筑波大学砂川有里子研究代表による「汎用的日本語学習辞書開発データベース」の構築など。
- 5) 例えば、東京工業大学仁科喜久子研究室による「日本語作文作成支援システムなつめ」の開発などがある。
- 6) 使用されている作文コーパスは、「JLPTUS 作文コーパス」（東京外国語大学留学生日本語教育センター）である。このコーパスの詳細については、東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木・中村（編）（2011）および『JLPTUS 作文コーパス』のご使用にあたって」（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/SUZUKI_Tomomi/paper/JLPTUS_Corpus_readme.pdf）を参照されたい。
- 7) 例えば国際交流基金（2012）の「JF 日本語教育スタンダード」に基づく「Can-do」は、「みんなの『Can-do』

サイト」(<http://jstandard.jp/cando/top/ja/render.do>) で公開されている。

- 8) 産出系の言語活動に関わる「Can-do」の中では、「電子辞書などについて話すことができる」というように、「辞書」は商品あるいは購入した品物など、説明の対象となるものの例として取り上げられている。
- 9) 東京外国語大学「全学日本語プログラム」(JLPTUFS: Japanese Language Program, Tokyo University of Foreign Studies) は、交流協定校からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、国費・私費の研究生、予備教育課程の国費研究留学生など、非正規の留学生を対象として 2004 年春学期より開かれることとなった全学的な日本語プログラムである。初級から超級まで 8 段階のレベルがあり、2013 年度春学期現在計 41 の科目が開講され、1 週間の延べ開講コマ数 (1 コマ = 90 分の授業) は計 83 となっている。
- 10) 質問についてはすべて日本語と英語を併記し、漢字には総ルビを振っている。
- 11) 日本語学習者の辞書使用には、もちろん学習者の言語学習観、学習スタイル、身に付けている IT リテラシーの程度、外国語の学習経験など、複数の要因が影響を与えていると思われる。ただし、本研究では、学習者の「書く」活動に関わる方略の 1 つとして、辞書使用についての「Can-do」記述を具体的に提示することを視野に入れている。「Can-do」記述とは、日本語の「熟達度」を示すものであるということ、また多くの日本語教育プログラムが、実際に日本語のレベル別にクラス設定を行っているという現実的な側面を考え、教育への応用という観点から、学習者の辞書使用のスキル養成のポイントは日本語のレベル別に抽出することとした。
- 12) これを、アンケート調査を行った東京外国語大学「全学日本語プログラム」で設定されているレベルコードで示すと、「初級」は 100 レベルおよび 200 レベル前半、「初中級」は 200 レベル後半、「中級前期」は 300 レベル、「中級中盤」は 400 レベル、「中上級」は 500 レベル、「上級」は 600 および 700 レベル、「超級」は 800 レベルに対応する。
- 13) 「母語 1」は「最も自由に使える言語」、「母語 2」は「母語と同じぐらい自由に使える言語」としている。
- 14) 「普段よく使用する辞書」で、「書籍」は書籍タイプの辞書、「ケイタイ」は携帯電話のアプリケーション、「PC」はパーソナルコンピュータのアプリケーション、「オンライン」はウェブ上のオンライン辞書のことである。「非常によく使う」「よく使う」「時々使う」「あまり使わない」「まったく使わない」の 5 段階尺度で回答を求めた。「時々使用する」以上の回答があったものを、「非常によく使う」は「◎」、「よく使う」は「○」、「時々使う」は「△」で表中に示している。
- 15) この回答者の母語はラオス語だが、英語とタイ語の辞書をよく使うと回答している。
- 16) この回答者は、電子辞書や携帯電話のアプリケーションのほかにウェブ上のオンライン翻訳サービスサイト (<http://translate.google.co.jp/>) をよく使うと回答している。使用している電子辞書には、日本語と母語 (インドネシア語) との対訳辞書は入っていないとの回答である。
- 17) ある漢字が字音形態素として含まれている漢語をすべて調べたい時に、その漢字が語頭に用いられている語しか検索できないということを述べていると思われる。
- 18) この回答者は、アンケート中の辞書の例文を評価する欄で「日本人に聞かなければ、使われる適当な文脈がわからない」とコメントをしており、辞書の例文について不便さを感じていることを記していると思われる。
- 19) この「詞性」は品詞のことを意味しているのではないと思われるが、それについてどのように工夫を行っているのかはこの回答からは不明である。
- 20) この回答者は、電子辞書と、パーソナルコンピュータのアプリケーション (越日・日越 PC 辞書「JaViDic」) をよく使うと回答している。使用している電子辞書には、日本語と母語 (ベトナム語) との対訳辞書は入っていないとの回答である。
- 21) この回答者はインタビュー調査について協力可と回答しており、アンケート調査終了後に、具体的な辞書使用の際の工夫について追加説明をもらった。回答者は普通、日中辞書と中日辞書の両方を使用している。日本語のある言葉の意味を調べるために日中辞書を引くと、通常異なる複数の中国語訳が並んでいる。回答者は、できるだけそれぞれの訳語を今度は中日辞書で引き直し、対応する日本語を再

—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して— 鈴木 智美

度確認してみるという方法をとっているとのことである。ある語を辞書で調べる際には、このように、それと意味的な関連を持つと考えられる他の語にも注意を払うようにしているということであった。

参考文献

- 国際交流基金 2012「JF 日本語教育スタンダード 2010 [第二版]」独立行政法人国際交流基金。
- 野田尚史 2011「コミュニケーションのための日本語学習用辞書の構想」日本語／日本語教育研究会『日本語／日本語教育研究』2、ココ出版、pp.5-32.
- 大谷尚 2008a「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』54(2)、pp.27-44.
- 大谷尚 2008b「質的研究とは何か—教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして」『教育システム情報学会誌』25(3)、pp.340-354.
- 大谷尚 2011「SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示の手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」日本感性工学会『感性工学』10(3)、pp.155-160.
- 鈴木美加・藤森弘子・藤村知子・鈴木智美・中村彰・坂本恵・花蘭悟・伊集院郁子 2012「日本語学習における目標記述をめぐって—全学日本語プログラムの can-do リスト作成に向けて—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号、pp.155-166.
- 鈴木美加・藤森弘子・藤村知子・鈴木智美・中村彰・花蘭悟・伊集院郁子 2013「大学教育における日本語コースの Can-do 設定—日本語の技能を言語知識や態度と結びつけた記述の試み—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 39 号、pp.65-82.
- 鈴木智美 2010「辞書の使用が引き起こす学習者の不自然な表現—『JLPTUFS 作文コーパス』の作文から見えてくること—」『2010 世界日本語教育大会 (ICJLE) 予稿集』(DVD 版)、1436-0-1436-9.
- 鈴木智美 2012a「留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—言いたい日本語はどう見つけるか—」平成 22 年度 (2010 年度) ~ 平成 23 年度 (2011 年度) 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 研究成果報告書 (課題番号: 22652047、研究代表者: 鈴木智美) 東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木智美 (編著)
- 鈴木智美 2012b「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号、pp.1-16.
- 鈴木智美 2012c「留学生は言いたい日本語をどう見つけるのか—留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—」『2012 年日本語教育国際研究大会予稿集』第 2 分冊、p.164.
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木智美・中村彰 (編) 2011「『JLPTUFS 作文コーパス』の構築」東京外国語大学留学生日本語教育センター教育研究開発プロジェクト「JLPTUFS 作文コーパス」報告書 (データ CD 別添)

参考資料

- 「汎用的日本語学習辞書開発データベース構築とその基盤形成のための研究」(科学研究費補助金助成事業: 基盤研究 (A)、研究課題番号 23242026、研究代表者: 筑波大学砂川有里子) < <http://jisho.jp.org/> >
- 国際交流基金「みんなの『Can-do』サイト」< <http://jstandard.jp/cando/top/ja/render.do> >
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター「JLPTUFS 作文コーパス」(CD 版) (2011 年 3 月発行)
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター「『JLPTUFS 作文コーパス』のご使用にあたって」< http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/SUZUKI_Tomomi/paper/JLPTUFS_Corpus_readme.pdf >

東京外国語大学留学生日本語教育センター「JLC 日本語スタンダードズ 2011 改訂版」

< <http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/jlc-gp/doc/standards-j.pdf> >

東京工業大学留学生センター仁科喜久子研究室「日本語作文作成支援システムなつめ」

< <http://wombat.ryu.titech.ac.jp/> >

Improving Japanese Language Learners' Skills in Dictionary Use: A Qualitative Inquiry Applying “SCAT” to an Analysis of the Survey of Foreign Students Dictionary Use

SUZUKI Tomomi

The purpose of this paper is to propose suggestions for improving Japanese language learners' skills in dictionary use based on an analysis of responses to open-ended questions asked in a survey on dictionary use. For the analysis, I applied the qualitative method called “SCAT” (Steps for Coding and Theorization) to investigate what kind of problems dictionary users have and how they invent strategies to use the dictionaries effectively.

The survey was conducted via questionnaire and targeted foreign students learning Japanese language in the Japanese Language Program at the Tokyo University of Foreign Studies (JLPTUFS). 117 responses from speakers of various native languages and Japanese levels were collected. The survey asked students about their daily use of dictionaries and included two open-ended questions asking them to describe their own usage methods if they have any and explain awkwardness felt in using dictionaries. A total of 56 students replied to those questions.

Through an analysis of all answers collected, I formulated suggestions to encourage Japanese language learners according to language levels from elementary to upper-advanced. The points provide recommendations to improve learners' effective use of dictionaries, particularly for improving writing skills. The objective of the suggestions is to facilitate sharing of information about the variety of dictionaries and dictionary applications among learners, and to clarify advantages and disadvantages of different dictionary types in order to help learners develop better strategies for solving problems encountered while using them.